

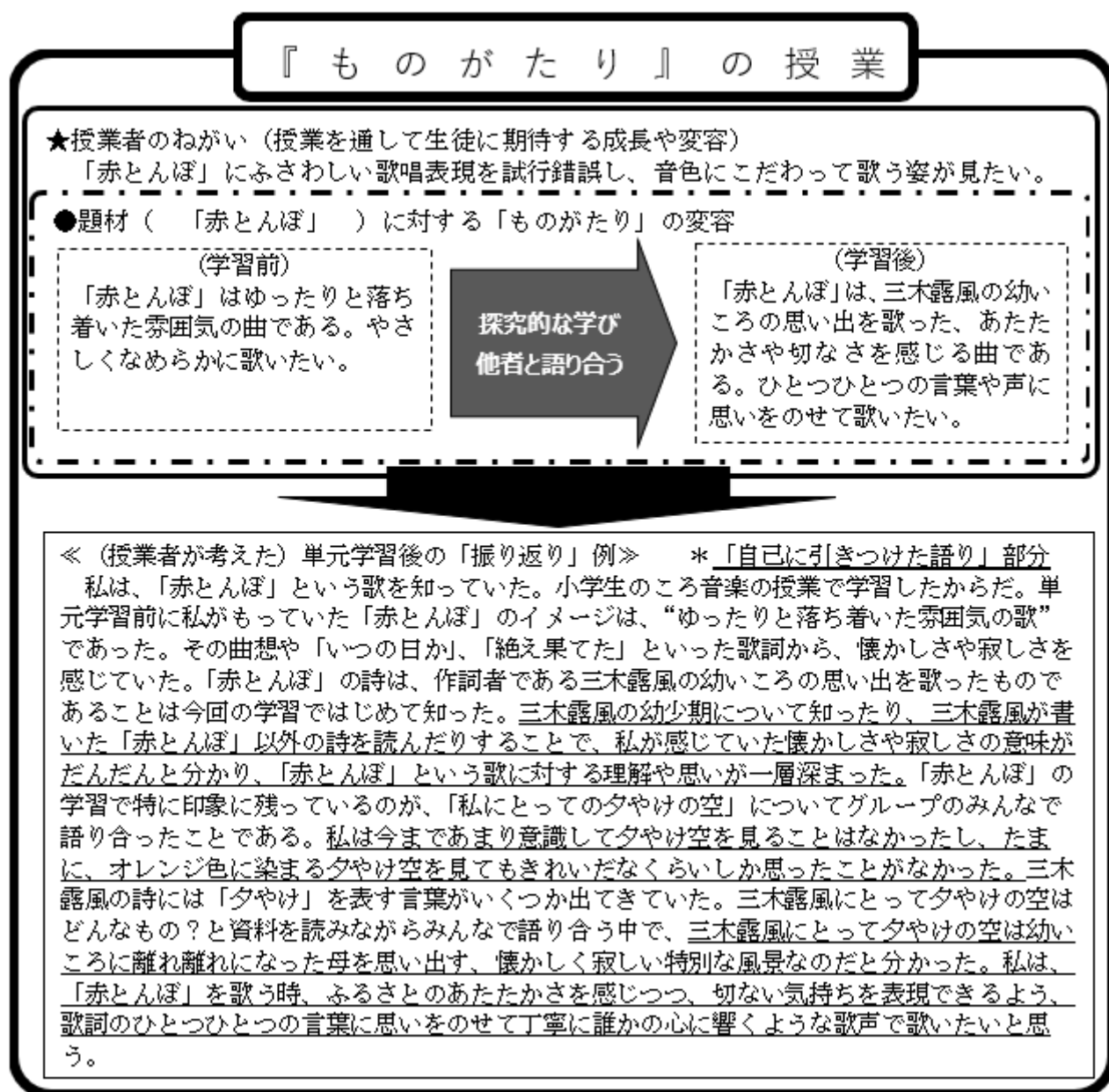
実践事例と分析

【実践事例「赤とんぼ」実施学年1 学年】

1 単元構成と学習課題（本時5時間／全5時間）

時間	学習課題	学習内容
1	「赤とんぼ」ってどんな歌？	歌詞や楽曲の背景からどんな気持ちが表現されているかについて語り合い、「赤とんぼ」という楽曲をどんな気持ちで歌いたい考える。
2	思いが伝わる歌の条件とは？	強弱や速度など音楽を形づくっている要素に着目し、どうしたら表現したい気持ちを歌で伝えることができるか考える。
3 (本時) 4	どんな声で歌うと「赤とんぼ」の詩に込められた作者の思いを表現できるだろう？	声の響き方や発音の仕方を工夫し、表現したい思いが伝わる歌い方を探す。
5	「赤とんぼ」の1番から4番は、全て同じ歌い方でよいのだろうか？	楽曲全体のイメージだけでなく、歌詞の内容に合わせて歌い方の工夫を考えて「赤とんぼ」を歌う。

2 本単元の「ものがたり」の授業構想図



3 分析

(1) 題材に対する「ものがたり」の変容について

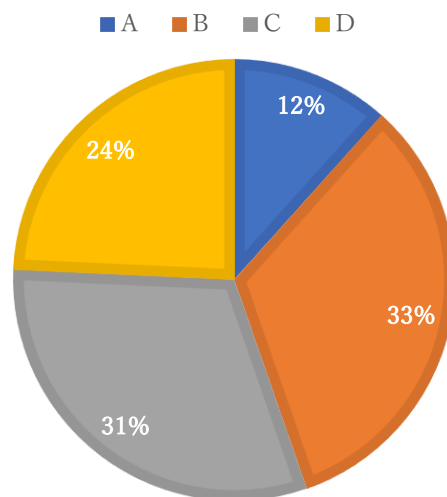
① 自己と題材に対する変容の割合

単元後の記述をA～Dに分類し、自己と題材に対する「ものがたり」が変容した生徒の割合を数量的に分析した。右図は、その結果である。

A～Dの基準 (Aにいくほど自己に引き付けている)

- A : 題材と自己の変容が見られ、「歌を歌うこと」について自分の言葉で意味づけ・価値づけしている (歌い方や音色を工夫することに対する価値を実感している)
- B : 題材と自己の変容が見られ、「歌を歌うこと」について自分の言葉で意味づけ・価値づけしている (ただし、楽曲の背景を理解することに対する価値の実感に留まっている)
- C : 題材の変容が見られるが知った、分かったにとどまっている
- D : 題材の変容が見られるが弱い (もしくは見られない)

生徒の「ものがたり」の分析結果
(N = 104)



② その具体

A : 題材と自己の変容が見られ、「歌を歌うこと」について自分の言葉で意味づけ・価値づけしている (歌い方や音色を工夫することに対する価値を実感している)

D : 題材の変容が見られるが弱い (もしくは見られない)

私は、最初に「赤とんぼ」はどんな感じがあるかと聞かれたとき、優しくなつかしい感じがした。でも少しさみしい感じもして、さびしい感じがするかなと思った。その後赤とんぼがすごくゆくりな曲で、強弱記号が多めだと分かって、それで優しく、なつかしく、さみしい感じがするかなと思った。でも、三木露風について学んで、さみしい感じがするのは歌い方だけではなく、詞も関係していることを知った。確かに詞だけ読むとものすごくさみしい感じが伝わってきた。その「さみしさ」を感じさせる詞をかけるのは三木露風の幼少期の経験から知って、自分のつらい経験も武器にして詞をつくる露風はすごくすごいと思った。

そんな赤とんぼを明るく、楽しく歌うと赤とんぼにこめられた思いが伝わらないから、歌い方を考えた。一番驚いたのは子音の出し方一つで印象がまったく変わってしまうことだった。そして私たちもふた意識しながらも話るときにしていることだと思う。それを改めて意識することで曲のふいきを変えられるのはすごいと思った。これから赤とんぼをただ歌うのではなく、どう歌いたいかを考えて、その曲に合った音色で歌いたい。

私にとって「歌を歌うこと」は作詞した人の伝えたい事を全力で表現する事と自分自身が楽しむ事です。

私は赤とんぼをこ独を感じていた三木露風さんを包みこむような優しい力強い感じで歌いたいです。具体的に言うと赤とんぼは元々ゆたりとしていた人だから強くなったりたまたま弱くなったりしますが、2番のなつかしい感じをもと出すために強弱を少なくし(弱くする)伸ばす事を意識します。3番は曲の中で一番悲しい所だと私は思うので母音を「u」にし、悲しさも表現しながら力強い子音も強調して歌いたいと思います。これだけ多くの事を意識して表現するのは正直難しいです。ですが今まで2番曲に感情が入った歌なので授業関係無しにも歌えるようになりたいです。

私は息があまり続かなかたり、高い声が出ななたりします。1時間目に授業があった時は朝早いからか、負われて見たのは何も歌えませんでした。赤とんぼの授業が始まってから歌えるようにはなってきたり、歌って楽しい!と思う事も増えました。でもまだまだ改善点はあると思います。息のコントロールや姿勢、1から頑張りたいです!!

(2) 単元における生徒の実践

① 分析の視点

[視点1] 楽曲の背景をもとに、自分なりに「こう歌いたい」と思いをもつことができるか

[視点2] 声の響きや発音の違いによって音色が変化することを実感しているか

② 分析の対象

抽出生徒A (S女): 「赤とんぼ」を知っている。あまり歌ったことはない。なつかしく落ち着いた雰囲気の曲だなと感じている。

抽出生徒B (A女): 「赤とんぼ」を知っている。歌ったことはない。おだやかで落ち着いた曲だなと感じている。

【楽曲の背景を学習した後の記述】

三木露風にとって「夕やけ」は・・・

母は今日も帰、てこない、という悲しい思いでながめていたもの、
いつか帰、てくると信じて待、ていたさみしい思い。
おなしい 毎日のこと

三木露風にとって「夕やけ」は・・・

毎日のことくも表す物。
さみしい

生徒Aは、作詞者の当時の気持ちによりそって、「悲しさ」や「さみしさ」を語っている。単に「悲しい」、「さみしい」という言葉だけでなく、「どんな時?」「どんな状況?」と具体的なイメージがふくらんでいる。

生徒Bは、楽曲の背景を理解することはできているが、「孤独」や「さみしい」など抽象的な言葉のみでの表現に留まっている。

この詩が生まれた背景をふまえて、あなたは「赤とんぼ」をどんな歌声で表現したいですか?

(さみじょうな) 歌声で表現したい。
なぜなら、
この詩は幼少期の三木露風のさみしい、悲しい、おなしい、という感情がこめられているから、

生徒Aは、楽曲の背景から読み取ったことや感じたことをもとに、自分なりにどう表現したいかを考えている。

この詩が生まれた背景をふまえて、あなたは「赤とんぼ」をどんな歌声で表現したいですか?

(やさしい) 歌声で表現したい。
なぜなら、
三木露風のことも表しつつ、「人いないよ」とことを補いたいから、

生徒Bは、楽曲の背景から読み取ったことに対して、自分なりのメッセージを込めてどう表現したいかを考えている。

この詩の背景を知る前はなんとなく「なつかしい感じがするなあ」としか思、ていなかったけど、詩の詳しいことをし、て、悲しい感じがしたのは、
そういうことかと思、た。

生徒Aは、楽曲の背景を詳しく知ることによって、「赤とんぼ」という曲で表現される気持ちを捉え直している。

赤とんぼ、て有名な曲だ、はな、くうにしか思、ていません、たか作者の意思だ、
たりは、こう悲、しい部分もある人、だ、な、と歌、い、方、も変、えて歌、て、か、た、と
思、え、ま、た、。

生徒Bは、楽曲の捉え方は変わっているが、「有名な曲」から「悲しい部分もある曲」というように変容している対象が一致していない。

【声の響き方や発音の仕方について考えた授業後の振り返り】

自分で意識していない発音のととの舌の動きや発音の仕方を考えてみると、一つ一つ違いがある。おもしろかった。「ぬ」が「ぬる」としているのは発音の仕方や母音に関係しているのかおもしろい。

母音と子音で表し方を変えると、また違う。ふんいきの歌にすると分かった。母音は「u」と「i」に入力して「a」が「o」の音外も、これ以外表したい「や」は「o」を表現できると思いました。

生徒Aは、母音や子音の違いによる声の音色の変化を実感しており、今まで考えたことのなかった声の出し方や歌い方についての自分の体の使い方などにも注目して考えている。

生徒Bは、母音や子音の違いで雰囲気が変わることは実感しているが、自分が出す声の音色に注目しているわけではなく、抽象的な気づきに留まっている。

【2番や3番をどのように歌いたいかについて考えた授業の振り返り】

「どんな風に歌いたか」と口で言うのは簡単だけど、いざそれを実際にやってみると、なかなか難しかった。テレビで見ると人たちはうまいな、と思った。音が全然出ない。

歌詞のふんいきに合わせて歌い方を変えると、その曲の良所などもたんと分かってきて楽しい。悲しいけど力強くてカッコいい、そんな歌だと失いました！母音を変えて歌うのが楽しかったです！

生徒Aは、頭で考えるだけでなく、自分の思いを表現する時の難しさを感じている。自分なりの思いをもって歌唱表現を試行錯誤していることが分かる。

生徒Bは、楽曲についての理解が深まったことが語られており、自分なりの思いを歌唱表現で表すために、声の響きや発音の仕方など音色を試行錯誤している様子は見られない。

4 考察【成果（○）と課題（●）】

- [視点1]において、楽曲の背景を深く理解することは有効であると感じた。教科書に載っている情報（楽譜、歌詞、楽曲の大まかな説明）だけでは、題材曲をどのように表現したいかといった、自分なりの思いを明確にもたせることは難しい。
- [視点2]において、母音の違いで聞こえ方の印象がガラッと変わることに関心、興味をもった生徒が多く母音や子音を用いて示すことは音色について考えさせることに対して有効であった。
- [視点1]において、本単元では歌詞や作詞者に着目した活動に留まってしまい音楽科の学習として不十分であったことが反省点である。音楽がどのように構成されているか、作曲者の意図やその場に鳴り響く音を頼りに、自分なりの思いや意図をもつことができるアプローチも考えていく必要がある。
- [視点2]において、聞こえてくる音を頼りに音色の違いによる雰囲気の変化を感じることができている生徒は多くいたが、自分の声を使って試行錯誤することに至らなかった生徒も多くいたため、歌い方や音色を工夫することに対する価値を実感することに関してはあまり成果を出せなかった。
- 歌唱表現を工夫する際に、強弱や音の高さだけでなく音色を工夫することで自分なりの思いを表現することにつながることに気づくことができたが、実際に試行錯誤する場面や納得のいく歌唱表現ができたという達成感は十分でなかったため今後の課題である。